

第1回秋田市雄和地域公共交通研究会議事録

開催の日時 平成20年5月29日(木)午後2時から4時まで

開催の場所 雄和地域活動センター

委員の定数 18名

出席委員 16名

議 題 (1) 秋田市雄和地域公共交通研究会について  
 (2) 秋田市のバス交通の現状について  
 (3) 秋田市郊外部における不採算バス路線での取組みについて  
 (4) 秋田市における公共交通の活性化・再生に向けた取組みについて  
 (5) 雄和線および雄和循環バスの現状について  
 (6) 秋田大学と共同で行った雄和地域におけるバス利用実態調査結果について  
 (7) その他

事務局 開会の言葉

次 長 研究会開会にあたっての挨拶

事務局 研究会設置規約について説明

各委員紹介

会長の選出  
 進行について打ち合わせ

会 長 挨拶  
 会長の職務代理者を委員を指名する。

事務局 「秋田市地域公共交通研究会について」の説明

委 員 年に何回開催する予定か。

事務局 次は7月に開催する予定で年度末まで4～5回開催する予定で来年の2月か3月までには方向性を見いだしたいと考えている。

委 員 委員のメンバー選出について、委員は自家用車使用者が多いようで実際のバス利用者がいないのでバス利用者をメンバーに加えるつもりはないか。

事務局 規約第5条にあるとおり、必要があれば出席を求めることはできるものである。

委 員 出席を求めることができることになっているのであれば特に問題はないのではないか。

委 員 既存のバス路線を廃止するということが前提であると認識してよいのか。

事務局 今のままではバス路線の継続は難しい。内容を変えて継続することは可能であると思っている。

事務局 「秋田市のバス交通の現状について」「秋田市郊外部における不採算バス路線での取組みについて」を説明

委 員 委員の任期が2年となっている中で、郊外部の不採算路線の平成20年の取組みの雄和線、ユージュルがあるが、この関連はどうなっているのか。任期内の20年度内に決めてしまうということか。

事務局 任期にとらわれることなく、20年度中に方針を決めたいと考えている。代替交通の運行には時間がかかるので逆算すると来年2月か3月になるものである。

委員 研究会でその目標に向かって努力するということになるのか。

事務局 そうである。

委員 「秋田市における公共交通の活性化・再生に向けた取組みについて」について説明

委員 全部事務局からの説明を聞いてから質疑を行いたい。

事務局 「雄和線および雄和循環バスの現状について」について説明

会長 片桐委員から全部終わってから質疑を行いたい旨の発言があったのでそのようにしたい。

事務局 「秋田大学と共同で行った雄和地域におけるバス利用実態調査結果について」について説明

委員 雄和地域でスクールバスのアンケート調査を行ったようだが、その結果はどうだったのか

事務局 通学方法の把握のため全市で行ったもので、雄和中学校をモデルとし通学時における路線バスの活用方法の可能性について調査したものであるが、現在取りまとめ中である。

委員 ユーグルは平成12年からの事業であるが、当初から100円で採算がとれるのか疑問であった。安ければ良いものではないと考えていた。これまで報道などを見守ってきた。距離制運賃にすればどうなるのか分かっているのか。

事務局 現在は、距離制運賃ではないし、乗降区間のデータがないのでそのような試算は出来ない。距離制運賃ではユーグル発足前の料金になるものである。距離から試算してみるとここから最長の中ノ沢まで800円と言う数字となる。

委員 100円から距離制運賃に料金改定したものの収支は分からないのか。旧大正寺線では黒字であったという話を昔聞いたことがあるがどうか。地域の要望としてはユーグルも存続してもらいたいと考えている。秋田市は赤字のまま存続はできないということであろう。私たちには具体的な案はもっていない。秋田市はどう考えているのかを聞かせてもらいたい。乗合タクシーの検討も含めて秋田市の考えを聞きたい。

事務局 地域の考え方を聞きたいと思って今回は会議を開いているので、2回目以降で具体案を示したい。

会長 その他何かないか。

委員 他地域での取組と当雄和地域の小中学生の利用状況についてどう考えているのか

事務局 北部での乗合タクシーの利用者は想定していた程度の数値である。心配していた点は、高齢者が電話が面倒とか乗り換えが不便などの問題であった。電話はまとめて予約できる様にしているし、小中学生は電話しなくても良いことにしている。乗ることを前提にしているので、休むときだけ連絡するようにはしてもらっている。高齢者についてはバスよりタクシーは小型なので家の前まで行ってくれることが好評とされている。

委員 北部地域に対する市からの持ち出しは怎么样了なのか。

事務局 1日3便程度のバスが運行本数を増やして1時間1本となっているので極端に補助金が減っていることはないと考えている。

委員 現状で秋田市の持ち出しがあるのかどうなのか分からないので、この地域にふさわしい交通体系を判断できない。

委員 地域の交通弱者救済という観点から考えると、市県の財源が逼迫している中で、地域に適した交通体系の構築を目指しているものと認識している。小中

- 学校など施設のあるところに人が集中しているので、利用者数の多いときはバスのまま現状維持にしたり、それ以外は乗合タクシーにするなどの複合式もあるのではないかと考えている。今後はどのような方向性で進めていくのか。
- 事務局 乗ってもらうのは地域住民の方々なので、現在の路線維持に関しては危機感を持ってもらいたいと考えている。具体案については提案できるが、地域で考えてもらいたいと考えている。
- 委員 現場の声が市に届かないとうまくいかないということであるから、地域住民の声を反映できるようにしてほしい。昨年アルヴェで行ったフォーラムの事例発表で、山形県川西町のデマンド交通で100万円単位で補助金の削減につながったと聞いている。その他の地域の事例を参考しながら、地域に即した良い交通体系になるよう希望する。
- 委員 スクールバスは廃止するのか、それともそのまま存続するつもりなのかどちらか。ユーグルは100円と言う安い金額にしても結局乗る人はあまりいないという結果になった。距離制運賃に料金改定しても存続できないということなのか。市がユーグルの存廃を議論しているようだが、ユーグルは中央交通でやっているものかと思っていたが、実際は誰がやっているのか。補助金をどれくらいなら市で出しているのかが分からないので、ユーグルを運送収入だけで運営するつもりなのか判断がつけられない。この会の最終的な結果は住民には喜ばれる結果にはならないと考えている。地域住民の意見を聞きながら対応を考えていくのか。また、距離制運賃での存続は可能なのだろうか。
- 委員 ユーグルが生まれたきっかけは中交交通の撤退を受けて、行政が救わなければならないということで発足したものと認識している。しかし、あまりにも恵まれすぎた施策であり、いつまで持続できるものかと思っていた。しかし、住民側は一旦受けたものを手放すには抵抗があるものである。したがって、料金、路線、時間一つ一つ検討してユーグルをベースにした案の一つ提示してもらいたい。その他の地域の事例を参考したものがあっても良いが、ユーグルベースの案を示してほしい。
- 事務局 スクールバスは教育委員会の所管であり、今後協議していく。国の補助事業であるので単純には活用できない。ユーグルは今現在も中央交通の運営である。今後も継続して運営できるか出来ないかは中央交通の判断である。常時乗っている人が少ない時間があるのでそこをデマンド交通にするなどの方法がある。ユーグルに関する秋田市の補助金は4,000万円程度で残り1,300万円の赤字を中央交通の持ち出しで路線が維持されているという認識を持ってもらいたい。中央交通だけで路線を維持してきた訳でなく秋田市も関与してきているものである。
- 会長 回答できない委員の要望にも今後答えてもらいたい。
- 委員 事業主体は秋田市になるとのことであるが、運行主体はどこになるのか。
- 事務局 委託運行の形をとると、市がサービスの水準を決めて運行をバス事業者に行ってもらうことになる。現時点で、今後どのような形態にするか決めている訳ではない。現状のユーグルを否定する訳ではないし、中央交通がそのまま運行していけるのであれば、それも一つの選択肢と考えている。
- 会長 その他事務局から何かないか。
- 事務局 先ほども話したが、次回は7月頃とし、2月か3月には方針を決定したいと考えている。
- 議事終了 -
- 事務局 開催する曜日や時間帯はいつが良いか。
- 委員 この時間で開催するのが良い。

事務局 | 平日の午後ということにし、会長と相談しながら日時を決めていきたい。